

特別活動（福祉委員会） できることを「今」やろう

川崎市立南大師中学校



単元（題材）目標

- 手話に興味関心をもつ。

福祉委員会では、これまでに行ってきたボランティアの他に、自分達で考えた企画を実践していく自主的活動を推進しています

(1) 実施時期 通年

(2) 対象（学年等・人数）

福祉委員 22名 全校生徒 364名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 1名

経験のある福祉委員の生徒 3名



(4) 実施内容

- 4月：新入生歓迎会

福祉委員長が、手話を使って自己紹介をしてから委員会紹介を行う。人の話は「目で見て、耳を傾けて、体ごと話し手の方を向いて聞くものだ」という考えから実施した。

- 5月：手話体験

手話月間ということ意識づけるため、専門委員会の時に手話のできる生徒が簡単な手話の挨拶を他の委員に教えた。それを各クラスの福祉委員がクラスの生徒に教えるという時間を設けた。

- 7・9月：指文字展示物作成

指文字による五十音の表し方を、軍手で作成する案が出る。左右や裏表が逆になってしまう苦労等もあったが、周囲と教え合いながら作成した。

- 10月：文化祭展示

文化祭展示の部で、軍手で作った指文字によるクイズラリーを企画。濁音や動かしで表す指文字を軍手で作成するのが難しく、「ようこそ」等簡単なもののみ展示した。



(5) 成果

福祉委員会では、継続的な活動の他に、自分達で考えた企画を実施できるよう年間計画を作成している。来年度に向けての企画書の中に、「手話を使って劇をしたり、福祉の大切さを伝える。」「簡単な手話を使い、わかりやすく福祉の良さを伝える。」「手話での学年交流。手話をもっと広める活動がしたい。」という案が出てきた。教員側から一方的に教え込むのではなく、福祉委員自身から手話に対する関心が高まり、「自分達も学びたい!」「周りの人にも伝えたい。」「協力して何かをやってみたい。」という意識が芽生えてきている。

来年度以降、講演会の設定や総合的な学習の時間、キャリア在り方生き方教育の中で、できる限り生徒の自主的な活動を意識しながら、手話を使用する人達の理解や言語としての手話に対する意識を高めていけるよう工夫をしていきたい。